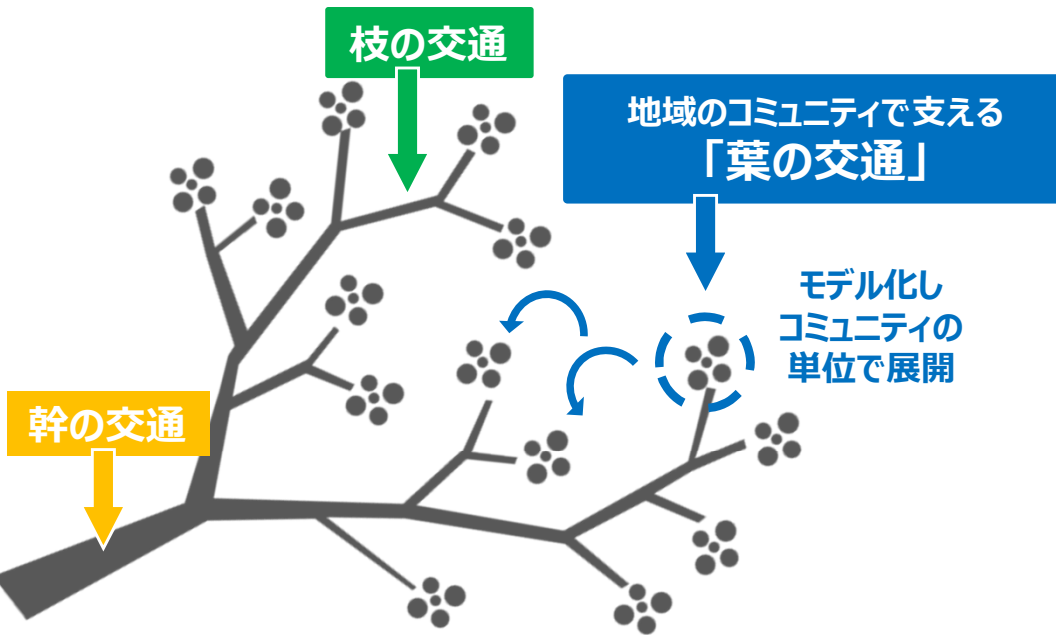


アフターコロナ時代に向けた 地域交通の共創に関する研究会について

- 危機に瀕する地域交通について、感染症を契機に人々の暮らしをめぐる環境や価値観も大きく変わる中、**地域交通の持つ価値や役割を見つめ直し、移動サービスの質・持続性を向上するため、地域の多様な関係者による「共創」に係る実地伴走型の研究会を設置。**令和3年11月にキックオフし、令和4年3月中間整理。

研究会のキーコンセプト



目的

- ・ **ファーストワンマイル**（自宅からの最初の移動）を**発想の起点**として、主に**「葉の交通」**について、**多様な主体の「共創」**を実践することにより、**暮らしのニーズに基づく持続可能な交通を実現するモデル**を研究する。

研究のスコープ

- ・ 地域の「ひと」の「暮らし」の充実を捉えた**移動の価値創出**
- ・ **持続可能な地域経営**—地域内ファイナンス・地域合意形成
- ・ 多様な主体が担う**交通セーフティネット** 等

研究会メンバー（敬称略・50音順）

【メンバー】

- 大下 篤志 株式会社みちのりホールディングスディレクター
- 神田 佑亮 呉工業高等専門学校環境都市工学分野教授
- 田中 仁 株式会社ジズホールディングス代表取締役CEO
- 長谷川エレナ朋美 株式会社 LUMIERE 代表/作家
- 古田 秘馬 プロジェクトデザイナー/株式会社umari 代表取締役
- 三ツ谷 翔太 アーサー・ディ・リトル・ジャパン株式会社パートナー
- 森田 創 合同会社うさぎ企画代表社員/作家
- 吉田 樹 福島大学経済経営学類准教授

【オブザーバー】

- 国土交通省 総合政策局 総務課 総合交通体系
不動産・建設経済局 参事官付
都市局 まちづくり推進課
鉄道局 鉄道事業課
自動車局 旅客課
海事局 内航課
国土交通政策研究所
各地方運輸局交通政策部交通企画課等
- 観光庁 観光地域振興部 観光資源課
- 内閣府 成果連動型事業推進室
- 厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課
- 環境省 大臣官房 地域脱炭素政策調整官
- 日本銀行 金融機構局 金融高度化センター
- 株式会社日本政策投資銀行
- 株式会社博報堂

【事務局】

- 国土交通省 総合政策局
公共交通・物流政策審議官部門 地域交通課
EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社



研究会のスコープ

○ 感染症による交通事業者の経営悪化やニューノーマルにおける利用者のライフスタイルの変化を踏まえ、**地域交通が地域で果たすべき役割や、より持続可能性を高めるための方法**について、**コミュニティ、ガバナンス、ファイナンス**という切り口から議論し、**官民や分野に捉われない「共創」を交通分野で一層進展させていくための手法**を研究した。

地域交通の存続に向け、介護や教育、商業などの他分野を含めた関係者による共創を推進するべきではないか

地域の輸送資源を一層活用するためのルールの透明化や、更なる輸送資源の掘り起こしを図るべきではないか

真の移動ニーズや他分野連携の可能性を探るため、行政と交通事業者に閉じない対話の場が必要ではないか

ファーストワンマイルのサービスとより上位の路線バス等の輸送をコーディネートする人材育成が重要ではないか

市町村や都道府県による応援の仕方を改めて整理すべきではないか

コミュニティ
くらし目線の交通の実現

ガバナンス
実効性のある交通マネジメント

ファイナンス
新しい手法も見据えた持続性の確保

まちづくり全体から、移動に派生する本源的な生活ニーズを意識したソーシャルビジネスへ立ち返るべきではないか

現下の交通事業者の経営実態をより詳細に把握し、分析する必要があるのではないか

プロジェクト単位での融資や成果連動型の資金調達の可能性も検討すべきではないか

収益採算性や利用者数だけではない交通の価値評価に係る成果指標を検討すべきではないか

官民や分野に捉われない「共創」の実践へ

コロナ禍の地域交通を取り巻く状況

- ・外出自粛による移動需要の減少、回復見通しの不透明
- ・ニューノーマルにおけるライフスタイルの多様化
- ・地域コミュニティの価値の再評価、ウェルビーイングの必要性

設置時の研究の Scope

- ・地域の「ひと」の「暮らし」の充実を捉えた移動の価値創出
- ・持続可能な地域経営—地域内ファイナンス・地域合意形成
- ・多様な主体が担う交通セーフティネット

アフターコロナ時代の地域交通のミッション：共創型交通への転換

- ・交通事業者等の交通サービス提供主体が、能動的に人の流れを生み出し地域コミュニティを活性化させること
- ・交通事業者等と地域の各産業のプレイヤーとが領域を越境して、地域コミュニティの課題を解決しあうこと
- ・地域コミュニティの構成員が交通を自分ごとと捉え、交通サービスの価値を最大化する機運を醸成すること

コミュニティを核とした 暮らし目線の交通の実現

<施策の提言>

- ① 医療・介護や子育て・教育、商業、エネルギーなど他分野との連携の推進
- ② 本源的な生活ニーズを意識したソーシャルビジネスへの立ち返りの推進
- ③ ナレッジの整理や、公共交通と多様な輸送資源との掛け合わせを推進

ガバナンスを強化した 実効性のある交通マネジメント

<施策の提言>

- ① 地域における行政と交通事業者の対話をつくり、さらに外側へ発展
- ② 地域における取組をコーディネートする人材育成の推進
- ③ 交通に対する市町村や都道府県による応援方策をリ・デザイン

新たなファイナンスの可能性の 探求による持続性の確保

<施策の提言>

- ① 交通事業者の経営・事業ポートフォリオを分析
- ② プロジェクト単位での融資や成果連動型の資金調達等の可能性の検討
- ③ 収支採算性や利用者数だけではない交通の価値評価の検討

共創における新たな官民の役割分担の方向性

【官：地方公共団体】

交通事業者等への財政支援等に加え、地域の多様な関係者を巻き込みながら、暮らしのニーズを十分反映したサービス水準の検討や、**事業者の実力を引き出し適切な動機付けを行える政策を展開**

【民：交通事業者等】

経営・事業の安定化に向け、地域の多様な関係者と連携するとともに、運営・運行に関するノウハウを能動的に発揮し、**良質で喜ばれる持続的な交通サービスを提供**

令和4年度はこれら議論を一層深掘りするため、研究会を継続併せて、令和3年度補正予算による実証事業（共創モデル実証プロジェクト）により概念実証を進める

コミュニティを核としたくらし目線の交通の実現①

- 地域交通において、ニューノーマルにおける新たな移動需要の創出の観点や、コミュニティを核として地域のくらしを充実させる観点から、官と民や、医療・介護、子育て・教育、商業、エネルギーなどの他産業との垣根を越えた取組や、移動目的を生み出すまちづくり全体から交通を捉えた取組を、「共創」の発想で進めていくべきではないか。

香川県三豊市

- ・ 市域ほぼ全域に地場の路線バス事業者が存在せず、近年高まる観光ニーズへの対応や生活交通に大きな課題。
- ・ 「行きたいときに 行きたいところへ 行けるまち」を掲げ、住民のくらしを豊かにするため、「ちよい乗り」サービスを地元企業で「共創」して支える仕組みづくりを図り、実証実験をスタート。

■ 父母ヶ浜

潮が引いた干潮時の夕暮れには、南米ボリビアの「ウユニ塩湖」のような写真が撮れると話題の新たな観光地



出典：三豊市HP

観光振興をきっかけとして、周囲にはカフェなどの出店が相次ぎ、移住、ワーケーションが進展

地域の生活・観光のための移動手段の確保が大きな課題に地域に根付いた「ここにはないものは自分たちで創り出す」という精神で、様々な産業の地元企業が共同で移動サービスを企画、誘客を促進

➤ コミュニティ単位で地元企業間が「共創」を推進

群馬県前橋市

- ・ 核となる「めぶく。」というビジョンのもと、官民共創によるまちづくりを推進。デジタル技術を活用したスーパーシティに申請。
- ・ 交通分野では、交通事業者6社が「共創」する共同経営の実現、デジタル基盤整備をベースに個別最適化した交通サービス「MaeMaaS」の推進等が図られている。

■ 前橋ビジョン「めぶく。」

Where good things grow.
その芽は、まだ小さい。
風に吹かれ、雨を待ち、太陽の熱うにその身をあずける。
そしていつか、枝をつけ、葉を繁らせ、
強く太い幹となる日を夢見ている。
人は芽だ。この地は芽だ。そしてつなぐは芽だ。
いまは幼い芽だけれど、未来の大地を揺る揺る芽だ。

Where good things grow.
この地ではじまる。芽ぐみ。
ここから、よきものが伸びてゆく。
いくつもの芽が育ち、やがては大きな森をついていくだろう。

Where good things grow.
わたしたちは、この地の芽吹きのために、
未来に希望の森を見るために、
優しい風になる。
悲しみの雨になる。
そして、なによりも熱い太陽になる。

Where good things grow.
さよ、芽吹く。
前橋の大地の下にはたくさんの種が、そのときを待っている。

めぶく。

■ MaeMaaS

MaeMaaS
JUST MOVE FORWARD

2021.10.01(金) START!

まえばしの交通環境を、もっと手軽に、もっと便利に。
新しいコンテンツも続々登場予定!



様々な交通モードで快適に移動!

出典：前橋市HP、前橋市作成資料

➤ まちづくり全体から官民が「共創」を推進

- 地域交通において、ニューノーマルにおける新たな移動需要の創出の観点や、コミュニティを核として地域のくらしを充実させる観点から、官と民や、医療・介護、子育て・教育、商業、エネルギーなどの他産業との垣根を越えた取組や、移動目的を生み出すまちづくり全体から交通を捉えた取組を、「共創」の発想で進めていくべきではないか。

北海道帯広市

- ・ 十勝バスは、コロナ禍を契機として帯広市の「大空団地」のコミュニティづくりに経営資源を集中的に投下。
- ・ 宅配業、飲食業にも進出しつつ、交通を核とした地域づくり「大空ミクロ戦略」を実践。地域が豊かになるにつれ、交通事業者もまた活性化するという新しい事業戦略を推進。

■ 大空ミクロ戦略

帯広市街の南西に位置する「大空団地」において、地区全体の魅力を高め活性化していくことにより、人口の増加、エリア内の移動の活発化、エリア外からの需要創造を図る。



主な事業	実施内容
おでかけ楽々便	地区内を自由に移動できる電話予約のデマンドバスを導入
マルシェバスの運行	車両を改造し食品等を販売できるようにしたバスを帯広駅-大空で運行
デマンドバスのAI化	アプリで時間や場所を設定し、ルートを最適化
飲食店の出店	焼肉店「にくや大空」を大空地区内に出店
宅配事業	地区内の飲食店から住宅に食品を配送

➤ **交通事業者が「共創」発想で多機能化を推進**

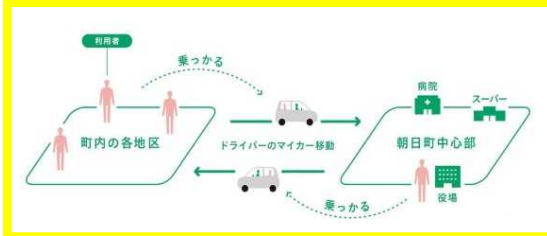
富山県朝日町

- ・ 地域のくらし目線で、コミュニティバスとタクシーの間を埋める住民による助け合いの移動手段「ノッカルあさひまち」を導入。
- ・ マーケティングにより生活者のニーズを捉え、課題をデジタル技術を活用して可視化。利用者とドライバーのマッチングにスマホを活用することにより、高い利便性を実現。

■ ノッカルあさひまち



ドライバーと利用者がスマホを使ってマッチング



事業者協力型自家用有償旅客運送
(交通事業者が運行管理)

➤ **デジタル技術を活用し「共創」発想で交通を導入**

あさひまちバス

平日に運行しているコミュニティバスです。路上の安全な場所であれば、バス停のない場所でも好きな場所から自由に乗り降りすることができます。

平日のみ運行
運賃 200円 (現金・IC)

まちバスセンター：0765-82-1171

オススメ

- おでかけの頻度が多い方
- いつも決まった時間にでかける方
- お時間に余裕がある方
- 平日のおでかけが多い方

ノッカルあさひまち

ご近所さんのマイカーでの移動を活用した新しい公共交通です。毎月決まったダイヤで運行しており、ご自宅付近の停留所から目的地まで直接行くことができます。ご利用の際は、会員登録と前日17時までの予約が必要です。

土日祝も運行
運賃 バス券3枚 (現金・IC)

予約は前日17時まで

会員登録：0765-83-1100 (朝日町役場)
乗車予約：0765-83-1189 (黒東タクシー 9:00~17:00)

オススメ

- 前もって予定が決まっている方
- 目的地まで直接行きたい方
- バスにちょうどいい時間がない方
- 土日もおでかけしたい方

黒東タクシー

朝日町唯一のタクシー会社です。お電話いただければすぐに迎えにまいります。基本的に毎日営業しており、町内・町外問わずどこでも行くことができます。

土日祝も運行
運賃 走行距離で変動
町外移動OK

配車：0765-83-1166

オススメ

- お急ぎの方
- 帰りの時間が読めない方
- 手荷物が多い方
- 自宅の前から乗り降りしたい方
- 土日もおでかけしたい方

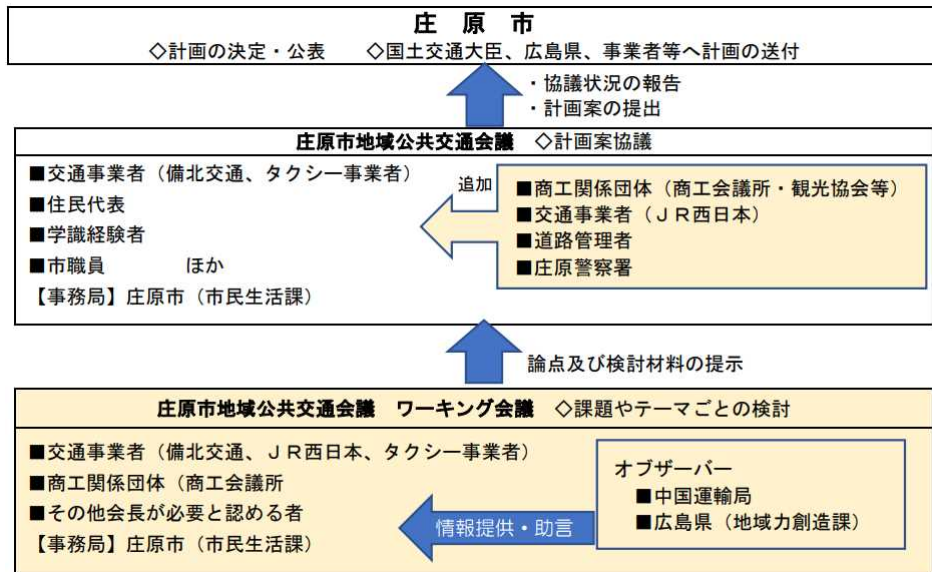
出典：朝日町HP、博報堂資料

- 地域交通において、地域で議論する場である協議会の制度や地域公共交通計画等の既存制度を工夫して運用しつつ、**真の移動ニーズ**を探るための分野を越えた場づくりや、**交通のベストミックスの実現のためのコーディネーターの育成**、**地域に対する行政による新たな応援のあり方の検討**を、「**共創**」の発想で進めていくべきではないか。

広島県庄原市

- ・ 法定協議会の下部組織として、現場に近く若い実務者により構成し、分野を越えた課題やテーマごとの検討を行うための「ワーキング会議」を設置。
- ・ 交通から議論を始めるのではなく、生活の課題や困っていることから議論をはじめ、本音を引き出しながらの対話を実施。

■ 庄原市地域公共交通会議とワーキング会議の構成



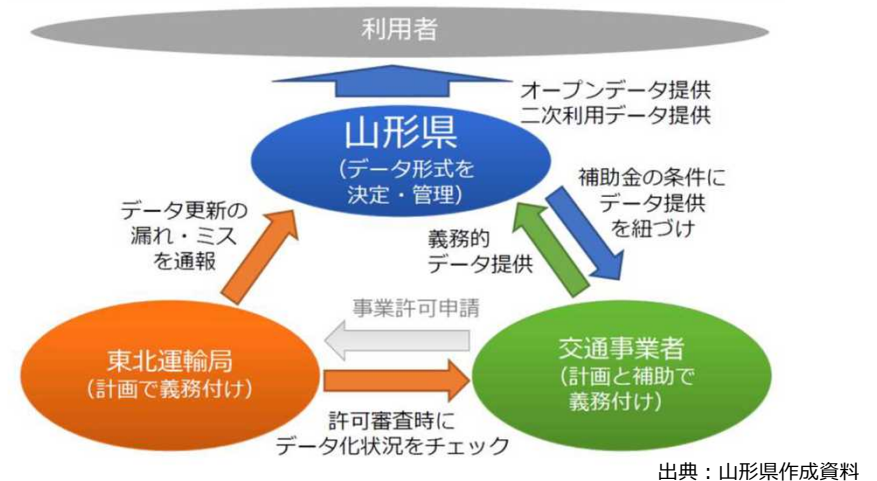
出典：庄原市地域交通会議HP

➤ 既存の制度を「共創」発想で円滑に運用

山形県

- ・ 県の地域公共交通計画で、県内の公共交通に関わる統計データや交通サービス情報を整理・作成し、県のサーバ上に蓄積していくオープンデータプラットフォームの構築を推進。
- ・ 交通事業者には運行に係る補助の要件の一つとしてデータ提供を依頼し、了解を得て進めている。

■ やまがた公共交通オープンデータプラットフォーム



MaaSやバスロケーションシステムの基盤として整備
町村のコミュバスを含む県内全てのバス・地域鉄道がスマホで検索可能に
市民・大学・企業等によるオープンデータを利用した地域分析等を促進

➤ 官民「共創」に向けた新たな行政の役割を提示

- 地域交通において、現下の交通事業者の状況を分析して経営のあり方を模索しつつ、交通事業者等が地元の企業や住民と適切にリスクを分担し、既存の枠組みとは異なる方法で支援を集める手法や、そのための合意形成に必要となる交通の果たす社会的な役割に関する指標の検討を、「共創」の発想で進めていくべきではないか。

愛知県豊明市

- ・ 地元の民間企業や病院、自治体などのエリアスポンサーからの協賛を得ることで採算性を向上し、エリアスポンサーには停留所を付与することで、Win-Winの関係を構築。
- ・ 住民が日常的にまちへ出かけ、地域経済の活性化が図られる好循環が生まれている。

■ チョイスコとよあけ

「チョイスコまで、ごいっしょに」を合言葉に特定の目的地へ定額の運賃で移動する健康増進を目的とした送迎サービス



■ 事業スキーム

下記はチョイスコとよあけの例

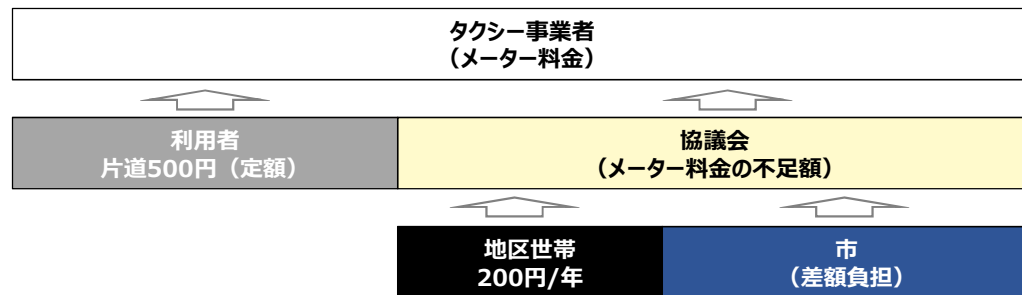


➤ 目的地施設との「共創」によりファイナンスを獲得

山形県南陽市

- ・ 沖郷地区では22年間、地区のほとんどが交通空白地帯だったが、自分たちに必要な地域交通として、既存の乗用タクシーをそのまま活用した「おきタク」を導入。
- ・ 自治体と地域住民とがどちらに依存することなく共に負担する仕組みにより、持続的なスキームを構築。

■ おきタクの運行経費に係るスキーム



出典：南陽市資料より国土交通省作成

対象者や利用の有無を問わず全世帯 (2,513世帯) から負担金 (200円/年) を徴収し、継続性と住民の意識を向上。沖郷地区住民 1 人あたり市の負担額は 121円/年までカット。加えて、事業でタクシーを活用し、事業者の収益安定化にも寄与。

➤ 行政、地区、利用者で「共創」してコストをシェア

アフターコロナ時代の地域交通のミッション：共創型交通への転換

- ・交通事業者等の交通サービス提供主体が、**能動的に人の流れを生み出し地域コミュニティを活性化させること**
- ・交通事業者等と地域の各産業のプレイヤーとが領域を越境して、**地域コミュニティの課題を解決しあうこと**
- ・地域コミュニティの構成員が交通を自分ごとと捉え、**交通サービスの価値を最大化する機運を醸成すること**

子育て・教育 × 交通



垣根を越えた
「共創」の実践へ

エネルギー × 交通



医療・介護 × 交通



交通を地域の暮らしと一体で捉え、行政や金融機関と連携して取り組む、**様々な分野（エネルギー、医療、教育など）との垣根を越えたプロジェクトを募集します！**
【「共創モデル実証プロジェクト」として4月から募集、審査・選定し、実証運行の経費等を支援】